

広報 デジタル化のメリット・デメリット

項目	メリット	デメリット
コスト面	• 印刷・配布費用の削減 • 修正時の再印刷不要 • 長期的なコスト削減	• 初期投資費用が必要 • システム維持費用の発生 • 通信費用の負担
情報発信	• リアルタイムでの更新可能 • 緊急情報の即時配信 • 過去の記事の検索が容易	• 更新作業の担当者確保 • 定期的なメンテナンス必要
利用者視点	• 文字サイズ変更可能 • 音声読み上げ対応 • いつでもどこでも閲覧可能	• デジタル機器操作の習熟必要 • 機器を持っていない方への対応 • 高齢者の抵抗感
運営面	• データの保管が容易 • 配布作業の省力化 • 記事の再利用が容易	• 運営側のスキル習得必要 • サポート体制の整備必要 • トラブル対応の負担
環境面	• 紙資源の節約 • ゴミの削減 • 保管スペース不要	• 電力消費の増加 • デジタル機器の廃棄問題

広報デジタル化 実施手順とポイント

実施手順

1. 準備段階

- ① 会員アンケートの実施
 - デジタル機器保有状況
 - インターネット利用状況
 - デジタル化への意向調査
- ② 運営体制の検討
 - 担当者の選定
 - 役割分担の明確化
- ③ 予算計画の策定

2. 環境整備

- ① 配信プラットフォームの選定
 - ウェブサイト
 - PDFニュースレター
 - メール配信システム
- ② 必要機材・ソフトウェアの準備
- ③ マニュアル作成

3. 試験運用

- ① 小規模グループでの試験実施
- ② フィードバック収集
- ③ 問題点の改善

4. 本格運用

- ① 紙媒体との並行運用開始
- ② 定期的な講習会の実施
- ③ サポート窓口の設置

成功のためのポイント

1. 段階的な導入

- 完全デジタル化を急がない
- 紙媒体との併用期間を十分に確保
- 会員の習熟度に応じて段階的に機能追加

2. サポート体制の充実

- 定期的な使い方講習会の開催
- 電話サポート窓口の設置
- 家族や若い世代の協力体制構築

3. コンテンツの工夫

- 見やすいレイアウト
- 分かりやすい操作方法
- 動画や音声など、デジタルならではの特徴を活用

4. 地域との連携

- 地域の公民館・図書館での閲覧環境整備

